小・中連携を推進しています！

～15歳までの学びをつなげる～

大山町では早くから、保育所と小学校の連携を推進してきましたが、平成24年度から、名和小学校と名和中学校が2年間の鳥取県研究指定「少人数学級を活かす学びと指導の創造事業」を受け、小・中連携を推進しています。

この事業は、鳥取県が平成24年度からこれまでの少人数学級を拡充し、義務教育9年間の全ての学年で35人以下の少人数学級を実施するのにともない始まったものです。また、これからの時代を生き抜いていく子どもたちに必要な思考力・判断力・表現力等を育み、子どもたちの内発的な学習意欲を高めさせていくため、小・中学校が連携をして授業改革に取り組み、子どもたちの学びの質を向上させることをねらいとしています。

名和小・中学校では、中学校卒業時にめざす生徒像を共有するとともに、教職員が授業改革部会と特別支援部会、生徒指導部会の三部会（平成25年度は授業改革部会と学習環境部会の二部会）に分かれ、子どもたちが学び合い、自分の考えをさらに深めることができる授業づくりや子どもたちの自己肯定感を高める交流活動の研究などに取り組みました。

紙面では、すべてをお伝えすることができませんが、いくつかの取り組みと成果についてお伝えします。

子ども同士の学び合い・高め合い

ねらいを明確にしたペア学習やグループ学習などの場を設定し、自分の考えを発表したり、話し合ったりすることにより、子どもたちの表現力を高め、思考を深める授業を意識して実践しました。

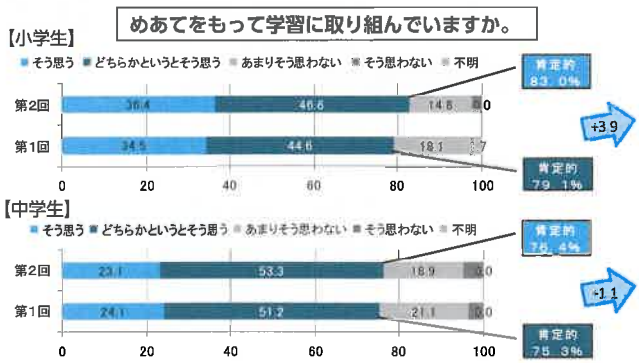
▲教え合い、学び合うことで自分の考えがより深まります

中学生が小学校の玄関であいさつ運動をしたり、入学説明会で中学校1年生が小学生に数学を教える場面を設定したりしました。「中1ギャップ」の解消につながるだけでなく、子どもたちの自己肯定感の向上にも効果がありました。

▲中学校への期待が膨らんでいます（入学説明会での合同授業）

左記のアンケート結果から（第1回6月・第2回12月実施）「めあてをもって学習に取り組むことができる」という質問項目で、肯定的な回答割合が増えていることがわかります。

このことからも、子どもたちが「意欲的に授業へ参加しようとしていること」がわかります。



教師同士の学び合い・高め合い

「小・中合同授業研究会」では、ワークショップ型のグループ協議を取り入れ、全教職員が発言する場を増やすことにより、多面的な角度から授業分析を行うことができました。

保・小・中の連携をいっそう進め、学校・保護者・地域がさらに連携することで、大山町の子どもたちに、これからの時代を生き抜いていく「確かな学力」、自分や周りの人、ふるさとを愛する「豊かな心」、たくましく「健やかな体」を育んでいきたいと考えます。

▲先生たちも学び合いながら、ともに授業改革に取り組んでいます